

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 9 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472300288		
法人名	株式会社 ひまわりあくと		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	広島県大竹市南栄2丁目6-31 (電話) 0827-53-3130		
自己評価作成日	令和2年8月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3472300288-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 2年 9月 29日 (火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にし、その中で入居者様がいきいきと自分らしく生活できるように支援している。食事は職員が台所で手作りしているが簡単な作業は入居者様にも手伝っていただきしている。また掃除や草抜きなども高齢者に負担にならない程度で介護者と一緒に行っている。認知症になっても役割を忘れずくらしただけで事を大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームさくらは、JR大竹駅から近く、近隣にはコンビニエンスストア・郵便局・公園等がある閑静な住宅街に位置しており、木造平屋建てで、木のぬくもりを感じる事が出来、天井も高く、明るく広々とした建物です。さくらの理念にもあるように「入居者と職員が、ひとつの家族として共に暮らせるよう 暖かい雰囲気の中で、生活をサポートしています」を職員全員で取組み、利用者一人ひとりに応じたきめ細かな介護を心掛けている。家族アンケートにおいても「気軽に訪ねて行きやすい。」と答えておられる方が多く「家族とのコミュニケーションにおいて、たいへん優れている」とも回答されていた。入居者の日頃の様子を写真に撮り、家族に送られて、安心して暮らしている様子が伺えて、大変喜ばれている。又、医療機関と密に情報の交換が出来るように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者のこれまでの生活を大切にし馴染みのある地域での暮らしを支援できるように、リビングに理念を掲げて職員全員で理念の共有に取り組んでいる。	法人理念の1つに「私達は、利用者のために限り無き愛情と責任をもって最善をつくします」又、さくらの理念に「入居者と職員が、ひとつの家族として共に暮らせるよう暖かい雰囲気の中で生活をサポートしています」を掲げ、ミーティング等で確認し、共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、自治会から様々な催しの声掛けをして頂いている。今年は新型コロナの影響で自治会のイベントは中止となっている。	コロナ禍以前は、地域の祭りである大竹祭りや餅つき大会等で、交流してたが、現在、イベントは殆ど中止となっており、交流は、出来ていない。今後は、運営推進会議等に参加してもらえるよう人数等、工夫して開催の予定である。	現在は、コロナ禍において、地域との交流が、難しいと思われませんが、ソーシャルディスタンスを保ち地域との繋がりを絶たない工夫をされることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域と共にあるホームとして少しでも地域の方々に貢献していけるように努めていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度運営推進会議を開いて写真付きの便りを活動報告として紹介しており、また出席者からも意見を聞いている	運営推進会議の構成員として、大竹・玖波地域包括支援センター職員・地域介護課・民生委員・自治会副会長・地域住民・家族・管理者・計画作成担当者等、参加していたが、今は、活動報告を添付して送付している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議などを活用して市役所とは常に連携し相談・助言を受けながら、サービスの向上に努めている	市とは、電話や直接出向いて、相談したり、助言を得たり、情報交換して協力関係を築くように取り組んでいる。又、市が開催する研修に参加して、質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等を通じ、身体拘束にあたる行為については皆で理解に努めている。玄関の施錠については、玄関がホールから死角である為、安全上開錠されていないが希望があれば職員が付き添いで開錠したりし自由な暮らしが出来るように努めている	身体的拘束適正委員会を2ヶ月に1回、開催して身体拘束グレイゾーンに対しても、積極的に取り組んでおり、職員全員で、意見交換しながら、身体拘束の内容や弊害について理解している。(薬を飲まない人への対応・居室の窓の鍵を掛ける等)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に繋がりがかねない不適切行為を事例を交えてミーティングの時に確認するなどしている。また2月6日の「高齢者虐待を防ぐためにできること」に2名の職員が出席しました		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	権利擁護を利用している入居者はいないが将来的に利用することも想定して勉強会を通じ学ぶ機会を持ちたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約解除時は十分に家族に説明し、ご理解、納得した上で契約を結んでいる		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族とは電話や訪問時にコミュニケーションを取り普段から信頼関係を築けるように努めている。また様々な要望などはミーティングノートを通じて職員間で共有するようにしている	常日頃から、電話等で家族から意見や要望を聞いている。(面会をさせてほしい等)少しずつ面会が出来るよう検討している。出来るところから、取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどで意見を広く募っているが、発言しにくい人もいるため管理者やリーダーは職員一人一人に声をかけて聞くなど風通しのよい雰囲気を作れるよう努力している	月1回の会議や日常業務の中で、職員の意見や要望を聞いている。管理者は、話し易い雰囲気を心掛けている。(勤務交代・文具の購入等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者を通じ職員からの要望などを全体で把握できるように努めている。また、職員が安心して働けるように柔軟に勤務変更などを行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティン時に勉強会を開いている。今年はコロナウイルスの感染拡大予防のため、事業所外の講習会などへの参加は自粛しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修・講習会などを通じて職員間での意見交換を行う等、サービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人の情報収集に努め、早い段階から不安や要望を把握していく過程でしっかりと思いを受け取め安心していただくことにより信頼関係が作れるように努めている		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	初回に行う面談などでしっかりとご本人の不安ごとやご家族の不安事を聞き、サービスに組み込んでいる。また一緒に問題を解決できるように取り組んでいる		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	必要としている支援を見極め、相談内容によってはその方向に適したサービスを紹介する等、柔軟に対応している		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	同じ空間で一緒に生活する者として、路用者の喜怒哀楽、本人の思いを共感・理解し、支え合えるような関係作りに努めている		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	家族とは常に連携を取り合い、本人を支える姿勢で一緒に考えて怒る自然な人間関係作りに努めている		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	今年はコロナ禍で面会を制限しているが手紙や電話で関係が途切れない様に取り組んでいる	今までは、家族の面会や友人・知人の来訪・葬儀や法事の参加をされていたが、コロナ禍以降、手紙や電話で、少しでも馴染みの関係が、途切れないように支援している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	両棟へはいつでも行き来できるようにしているが、今年はコロナの感染拡大予防のため、制限している		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	事情によりサービスが終了しても面会にいたり家族の相談に乗って関係を断ち切らない様になっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活リズムを聞きながら、ご本人の意向も聞いて、検討し、出来る限り思いが叶うようにしている	今までの生活歴や日々の関わりの中で聞き取った事等、本人が、望むここでの暮らし方や思いや意向を汲み取り、本人本位に検討している。(和菓子作りや調理・毎日の新聞購読・作業等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や個性、価値感等、入居前の情報提供書だけではわからないことがあるので、入居後も家族に情報を聞いて一人一人の生活歴に沿うように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	「生活の記録」に記録してその日のリズムが一人一人わかるように記録し、また突発的に変わった事があればミーティングノートにも記載して情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の視点にたち、計画作成の意向だけが活かされたプランにならないよう、本人、家族、職員などから意見、要望を組み込みながら作成するように努めている。また状態変化があった場合は随時作成し直すように努めている	介護計画は、3ヶ月に1回見直しをしている。1ヶ月に1回のカンファレンスを行い、日々の気付きや現状の把握(排泄や移動)、家族、本人の要望を取り入れ、計画担当者が作成している。状態に変化があった場合、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別生活記録により職員間での情報共有が出来ている。また本人の言葉やエピソード等を記録し介護計画の作成、評価、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに答えるために柔軟な職員のローテーションや多職種連携して居宅療養管理指導の活用など、多角的な視点で実現しように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の生活がより良い物になるように地域資源を活用し模索しているが、今年はコロナの影響で大竹祭りが中止になった。現在ボランティアさんの来棟は自粛している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しているが、在宅時から利用しているかかりつけ医を利用される方が多い。本人や家族の希望に沿うようにしている	入所時にかかりつけ医等を確認し、本人や家族が安心して適切な医療が受けられるよう連携している。その他の科を受診する場合は、家族にお願いしているが、難しい場合は、職員が、対応している。希望すれば、歯科医も往診がある。口腔ケアも大切に、健康面に力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	早い段階で状態の変化や異常に対応できるように日々看護師、かかりつけ医の看護師、協力医療機関看護師等に相談しながら、一人一人の健康管理や医療支援に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は病院と連携を取りながら、情報を細かく報告・伝達し希望に添えるようにしている。特に退院後に必要な介護用品が必要な場合は家族に相談している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族・医師との話し合い後に介護職員、看護職員、家族との話し合いを行っている。ホーム内で出来る事、出来ない事を説明し、できるだけ希望に添えるようにしている。	契約時に「利用者重度化対応の指針」を説明し、同意書を頂いている。利用者や家族の意見を大切に、ぎりぎりまで支援している。ホームの看取りの考え方としては、本人の尊厳に十分配慮しつつ思いやりをもって終末期の介護を行うことを、これからも目指していくものとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	合同ミーティング等で緊急時の行動シミュレーションを行い、急な状態変化に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施。消防本部からも助言を頂きその後職員で確認して備えている	昼・夜間想定を含む避難訓練を行っている。今後、地震対策や水害・津波等の課題についても消防署の指導の下、話し合いを行う予定である。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや対応の仕方が画一化しない様に一人一人の人格を尊重しプライバシーの確保に努めている	接遇研修を行い、その人らしく生活が送れるよう、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的にコミュニケーションを取って、それぞれ自分の意志を表出してもらえるような雰囲気を作るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個別で得意な事をしてもらるようにしている。日によっては気分や要望も違う為、職員がその希望に沿うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回の散髪がコロナ禍で出来なかったが美容師の資格を持つ職員がおり、時間がある時や入浴時に散髪を行った。起床時の身だしなみなど気を付けてもらうように声掛けしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や配膳・片付けなど出来る範囲で取り組んでもらっている。また一緒に同じ物を食べ食事が楽しい時間になるように支援している	食材が届き、献立は、本部で管理栄養士が作成したものを使用している。利用者も職員と一緒に出来るところを手伝っている。時には、おやつに、おはぎや誕生日ケーキ・フレンチトースト等を協力して一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事チェック表を作り、毎食時に記録している。また嚥下の悪い方はトロミ剤の使用、歯の治療で噛む事が難しい方には刻み食など対応など個々に応じて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは毎回声掛けをし時には歯磨き介助を行い、訪問歯科と連携して口腔ケアに入ってもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入し個人の排尿や排便のタイミングを掴んでいる	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をする事で、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のタイミングを掴むため排泄チェック表を常に活用し、医師と連携して緩下剤を服用したりなるべく水分を摂取してもらえるように食事時のお茶・汁物・服薬の水は摂取できるように声掛けをしている。また水分摂取が少ない方に関してはゼリーやほかの飲み物でも対応をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者一人一人の希望を大切にしながらゆっくりと入浴ができるように配慮している。また入浴を嫌がる方に対しても声掛けや順番を工夫して声掛けをさせてもらい個々に合わせた入浴支援に努めている	入浴は、週3回として、利用者の体調や気分を見ながら支援を行っている。体調を見ながらシャワー浴や清拭・足浴の対応も行っている。現在は、入浴拒否は、居られない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間の固定観念にとらわれず個人の生活リズムに合わせ昼食後に休まれたり夕食後に早く横になりたい方は居室に帰って頂くなど気持ちよく就寝出来るように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲みにくい薬があればすぐに医師・薬剤師と連携をとり、指示を仰いでいる。OD錠などを活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る事と出来ない事を見極め、一人一人に応じた役割を作り残存能力を生かせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で不要不急の外出は控えているが、テラスへ出て日向ぼっこをしたりして敷地内ではあるが外に出る機会を作っている	コロナ禍以前は、花見・祭り・外食等を行っていたが、今は、出来ない状態。そんな中でも散歩やテラスで日向ぼっこ等で、外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルになるため、金銭の持ち込みは許可していないがとりわけお金の執着無く周りトラブルにならない事が確認でき、財布にお金を入れてるだけで安心な方については数千円持ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの手紙はご本人に渡しまだ返事も書いてもらってりして交流をしている。また電話も取次ぎ、会話してもらっている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに大きなソファを置いたり廊下にも椅子を置いて一人になれる空間を作っている。壁画や飾り物で季節感を出したりしている。両棟へはいつでも行き来できるようにしているが、現在コロナ禍で制限している	ダイニングルームは天井が高く、天窓があり、明るく開放的である。換気にも配慮し、居心地よい場所にソファやテーブルを配置し、壁には利用者と一緒につった季節を感じられる壁画や飾り付けを施し、台所からは、食事を作る音や匂いを感じ、さながら家庭で寛いでいる雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの利用者がリビングテーブルで過ごす、ソファに座って一人で過ごせるような空間も作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みに制限は特に無く家で使用していた馴染みのある物を持参してもらったり写真や飾り物など持って来てもらい居心地よい空間にしている	居室には、、使い慣れた馴染みの物を持ち込み、人形・椅子・筆筒・テレビ・位牌・色紙・家族写真等、本人が、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの位置や廊下の幅を広く取るなど職員全員が入居者と関り入居者一人一人能力を把握し安全かつ自立支援が出来るように生活環境作りを努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者のこれまでの生活を大切にし馴染みのある地域での暮らしを支援できるように、リビングに理念を掲げて職員全員で理念の共有に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、自治会から様々な催しの声掛けをして頂いている。今年は新型コロナの影響で自治会のイベントは中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域と共にあるホームとして少しでも地域の方々に貢献していけるように努めていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度運営推進会議を開いて写真付きの便りを活動報告として紹介しており、また出席者からも意見を聞いている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議などを活用して市役所とは常に連携し相談・助言を受けながら、サービスの向上に努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等を通じ、身体拘束にあたる行為については皆で理解に努めている。玄関の施錠については、玄関がホールから死角である為、安全上開錠されていないが希望があれば職員が付き添いで開錠したりし自由な暮らしが出来るように努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に繋がりがかねない不適切行為を事例を交えてミーティングの時に確認するなどしている。また2月6日の「高齢者虐待を防ぐためにできること」に2名の職員が出席しました		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護を利用している入居者はいないが将来的に利用することも想定して勉強会を通じ学ぶ機会を持ちたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約解除時は十分に家族に説明し、ご理解、納得した上で契約を結んでいる		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族とは電話や訪問時にコミュニケーションを取り普段から信頼関係を築けるように努めている。また様々な要望などはミーティングノートを通じて職員間で共有するようにしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどで意見を広く募っているが、発言しにくい人もいるため管理者やリーダーは職員一人一人に声をかけて聞くなど風通しのよい雰囲気を作れるよう努力している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者を通じ職員からの要望などを全体で把握できるように努めている。また、職員が安心して働けるように柔軟に勤務変更などを行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティン時に勉強会を開いている。今年はコロナウイルスの感染拡大予防のため、事業所外の講習会などへの参加は自粛しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修・講習会などを通じて職員間での意見交換を行う等、サービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人の情報収集に努め、早い段階から不安や要望を把握していく過程でしっかりと思いを受け取め安心していただくことにより信頼関係が作れるように努めている		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	初回に行う面談などでしっかりとご本人の不安ごとやご家族の不安事を聞き、サービスに組み込んでいく。また一緒に問題を解決できるように取り組んでいる		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	必要としている支援を見極め、相談内容によってはその方向に適したサービスを紹介する等、柔軟に対応している		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	同じ空間で一緒に生活する者として、路用者の喜怒哀楽、本人の思いを共感・理解し、支え合えるような関係作りに努めている		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	家族とは常に連携を取り合い、本人を支える姿勢で一緒に考えて怒る自然な人間関係作りに努めている		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	今年はコロナ禍で面会を制限しているが手紙や電話で関係が途切れない様に取り組んでいる		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	両棟へはいつでも行き来できるようにしているが、今年はコロナの感染拡大予防のため、制限している		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	事情によりサービスが終了しても面会にいたり家族の相談に乗って関係を断ち切らない様になっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活リズムを聞きながら、ご本人の意向も聞いて、検討し、出来る限り思いが叶うようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や個性、価値感等、入居前の情報提供書だけではわからないことがあるので、入居後も家族に情報を聞いて一人一人の生活歴に沿うように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	「生活の記録」に記録してその日のリズムが一人一人わかるように記録し、また突発的に変わった事があればミーティングノートにも記載して情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の視点にたち、計画作成の意向だけが活かされたプランにならないよう、本人、家族、職員などから意見、要望を組み込みながら作成するように努めている。また状態変化があった場合は随時作成し直すように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別生活記録により職員間での情報共有が出来ている。また本人の言葉やエピソード等を記録し介護計画の作成、評価、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに答えるために柔軟な職員のローテーションや多職種連携おして居宅療養管理指導の活用など、多角的な視点で実現しように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の生活がより良い物になるように地域資源を活用し模索しているが、今年はコロナの影響で大竹祭りが中止になったりボランティアさんの来棟は自粛している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しているが、在宅時から利用しているかかりつけ医を利用される方が多い。本人や家族の希望に沿うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	早い段階で状態の変化や異常に対応できるように日々看護師、かかりつけ医の看護師、協力医療機関看護師等に相談しながら、一人一人の健康管理や医療支援に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は病院と連携を取りながら、情報を細かく報告・伝達し希望に添えるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族・医師との話し合い後に介護職員、看護職員、家族との話し合いを行っている。ホーム内で出来る事、出来ない事を説明し、できるだけ希望に添えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	合同ミーティング等で緊急時の行動シミュレーションを行い、急な状態変化に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施。消防本部からも助言を頂きその後職員で確認して備えている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや対応の仕方が画一化しない様に一人一人の人格を尊重しプライバシーの確保に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的にコミュニケーションを取って、それぞれ自分の意志を表出してもらえるような雰囲気を作るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個別で得意な事をしてもらえるようにしている。日によっては気分や要望も違う為、職員がその希望に沿うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回の散髪がコロナ禍で出来なかったが美容師の資格を持つ職員がおり、時間がある時や入浴時に散髪を行った。起床時の身だしなみなど気を付けてもらうように声掛けしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や配膳・片付けなど出来る範囲で取り組んでもらっている。また一緒に同じ物を食べ食事が楽しい時間になるように支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事チェック表を作り、毎食時に記録している。また嚥下の悪い方はトロミ剤の使用、歯の治療で噛む事が難しい方には刻み食やお粥など対応など個々に応じて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは毎回声掛けをし時には歯磨き介助を行い、訪問歯科と連携して口腔ケアに入ってもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入し個人の排尿や排便のタイミングを掴んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のタイミングを掴むため排泄チェック表を常に活用し、医師と連携して緩下剤を服用したりなるべく水分を摂取してもらえるように食事時のお茶・汁物・服薬の水は必ず時間をかけてでも取ってもらうように声掛けをしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者一人一人の希望を大切にしながらゆっくりと入浴ができるように配慮している。また入浴を嫌がる方に対しても声掛けや順番を工夫して声掛けをさせてもらい個々に合わせた入浴支援に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間の固定観念にとらわれず個人の生活リズムに合わせ昼食後に休まれたり夕食後に早く横になりたい方は居室に帰って頂くなど気持ちよく就寝出来るように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲みにくい薬があればすぐに医師・薬剤師と連携をとり、指示を仰いでいる。簡易懸濁やOD錠などを活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る事と出来ない事を見極め、一人一人に応じた役割を作り残存能力を生かせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で不要不急の外出は控えているが、テラスへ出て日向ぼっこをしたりして敷地内ではあるが外に出る機会を作っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルになるため、金銭の持ち込みは許可していない。本人から要望がある時は家族と相談しながら(職員に預けてもらうなど)出来る限り本人に希望に沿うようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの手紙はご本人に渡しまだ返事も書いてもらってりて交流をしている。また電話も取次ぎ、会話してもらっている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに大きなソファを置いたり廊下にも椅子を置いて一人になれる空間を作っている。壁画や飾り物で季節感を出したりしている。両棟へはいつでも行き来できるようにしているが、現在コロナ禍で制限している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの利用者がリビングテーブルで過ごす、ソファに座って一人で過ごせるような空間も作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みに制限無く家で使用していた馴染みのある物を持参してもらう事で心地よく過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの位置や廊下の幅を広く取るなど職員全員が入居者と関り入居者一人一人能力を把握し安全かつ自立支援が出来るように生活環境作りに努めている		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさくら

作成日 令和2年9月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	今年はコロナ禍で外との繋がりが経たれ、様々な方法を模索したが叶わないことが多かった	家族との面会や地域との繋がりを経たないように努力する	ソーシャルディスタンスを保ちマスク着用で関りが保てるようにする	6か月
2	13	コロナ禍の中で外部研修の参加回数が少ない	適宜外部研修に参加できるようにしたい	人員配置の工夫をして研修に参加できるようにしたい、また社内研修も充実させていく	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。